
現場で働く教員・指導医のための 医学教育学プログラム—基礎編



2024年度版ハンドブック

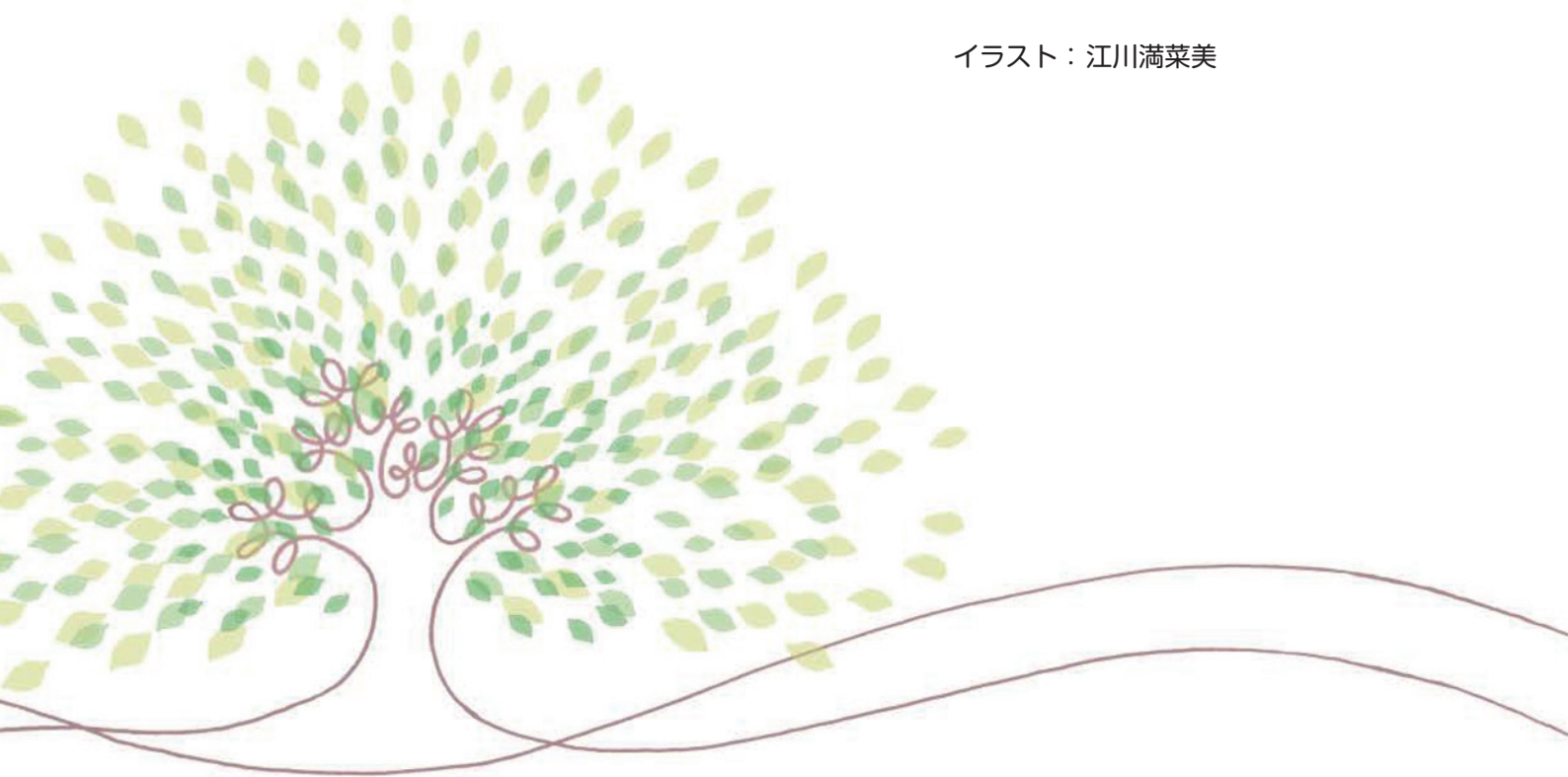


目 次



● ごあいさつ	02
● 本プログラムの思想・哲学	03
● 本プログラムが考える 「よい医学教育者」に求められる能力	04
● 医学教育学カリキュラム ユニット一覧	05
● 本プログラムにおける基本的な学習・教育法	07
● ラーニングマネジメントシステム 『Google classroom』について	07
● 受講生の声と授業風景	08
● 参加体験型授業・Web討論型授業 年間カレンダー	09
● 参加体験型授業・Web討論型授業 予定表	11
● 募集要項	16
● スタッフ紹介	17
● 教科書の紹介	23

イラスト：江川満菜美



ごあいさつ



本邦には現在約30万人の医師がおり、そのほとんどがキャリアのどこかで教育に関わります。例えば大学で働く教員の先生は学生や院生の教育に、臨床研修病院で働く先生は初期研修医指導に、開業して診療所で働く先生は患者教育に。ただ医学部では「教える」ということについて学ぶ機会はほとんどありません。そうすると、どうしても「自分が教わった方法」で教えることになりがちなのですが、多くの先生がその「自分が教わった方法」でよいのだろうかと感じたまま、教育に関わっているという現状があります。

その意味で多様な教育方法を知って教育活動の幅を広げることは、非常に意義があります。また「なぜ教えるのか？」や「何を教えるべきなのか？」といった問いに対しても、医学教育学は一定の理論的枠組み（レンズ）を与えてくれます。本プログラムを受講される皆さんには、そのレンズを使って自分自身の教育を省察（振り返りともいいます）し、教育活動の幅を広げてもらいたいと思っています。

医学教育学の考え方の一つに「教え方に唯一解はない」というものがあります。別な言葉を使えば「Bestな教育は存在しない」という言い方もできる。学生や研修医の数、彼らのやる気、教える内容、自分の調子、部屋の温度など、様々なものに教育活動は影響を受けます。教育に関わる者はそのような状況を全て加味しながら、どのようにしたら自分が伝えたいと思っている内容を学んでもらえるのか、と問い続けるしかありません。その際に、本プログラムが提供するレンズが皆さんの視野を広げるという形で一助となることを心から願っています。

名古屋大学総合医学教育センター 教授
プログラム責任者

錦織 宏



1. 医療・教育の実践を通して他者貢献「感」を得る
2. 多様性を重視する（社会構成主義＞実証主義）
3. 実証主義文化圏である医学と社会構成主義文化圏である教育学を適切に行き来する（プラグマティズム。適度に「よい～」について問う）
4. 自己省察・自己評価を重視する（可能な限り性善説）
5. 思考停止しない（なぜ？を問い続ける）
6. 現場での行動を重視する（行動する知識人である）
7. 対話と討論を重視し、アウトカムと同様にプロセスも重視する
（教育のアウトカムを検証するには遠視眼的な視点が求められるので）
8. 医療・教育を「社会的共通資本」として捉え、暴走する新自由主義と正当に対峙する
9. 難しいことを簡単に伝える（決して、簡単なことを難しくしない）
10. 以上の思想・哲学を過度に他人に押し付けない



本プログラムが考える 「よい医学教育者」に求められる能力

前ページの思想・哲学を持って……

よい教育法を実践できる	教育と学習 Teaching and Learning	TL
よいカリキュラムを開発できる	カリキュラム開発 Curriculum Development	CD
よい評価法を計画・実施できる	学習者評価 Assessment	A
組織を改革することができる	リーダーシップ・マネジメント Leadership and Management	LM
学ぶという行為について深く考えることができる	教育哲学 Philosophy	PH
Information Technology (IT) を用いた 学習環境を構築できる	情報工学 Information Technology	IT
異文化・他者を理解することができる	文化人類学 Cultural Anthropology	CA
医学教育研究を実施できる	医学教育研究 Research	RE
上記を統合できる	医学教育学総論 General	GE
その他	Others	OT





医学教育学カリキュラム ユニット一覧

TL

教育と学習

Teaching and Learning

TL1	小グループ学習のファシリテーション・反転授業 参1
TL2	成人教育入門 前W
TL3	シミュレーション教育とははじめ —デザインを考える 参2
TL4	シミュレーション教育とははじめ —デブリーフィングを考える 参2
TL5	ベッドサイドティーチングと外来教育と William Osler 参2
TL6	学生・研修医のメンタルサポート 後W
TL7	シネメデューション① —映像の持つ力とその教育への応用 参3
TL8	PBL—理論的美しさと日本での実質的破綻 参3
TL9	シネメデューション② —シネマナイトの体験からナラティブの語りへ
TL10	TBL—教育資源を考えた インタラクティブティーチングの一型
TL11	守破離という学び方と師匠・弟子関係
TL12	カリスマ講師的講義法と予備校教育の現在
TL13	スタディガイドと教科書 —双方向性を書くということ
TL14	よい指導医像 —自身の教育スタイルを知って強みを生かす

CD

カリキュラム開発

Curriculum Development

CD1	カリキュラムを作る・壊す —自由な学びの場の構築 前W
CD2	カリキュラム評価と有名臨床研修病院の意味 後W
CD3	インストラクショナル・デザインで斬る 参3
CD4	地域基盤型医学教育—理論と実践 後W
CD5	多職種連携教育—医師がもつ特権とは？
CD6	データは医学教育をどのように変えうるか（教学IR入門） 後W
CD7	アウトカム基盤型医学教育と医学教育の ビジネスモデル
CD8	必修と選択 —最低限を設定して期待しすぎないということ
CD9	認証評価と教育カリキュラム標準化の功罪

A

学習者評価

Assessment

A1	関係性から見るフィードバックと承認欲求 参1
A2	評価方法を設計する 前W
A3	診療現場での間主観的な評価 —責任ある主観とポートフォリオ
A4	Work-Based Assessment 評価者トレーニングとルーブリック 参3
A5	合否判定基準と再試験の在り方 後W
A6	EPA（Entrustable Professional Activity） と臨床教育
A7	実技試験の強みと弱み —OSCEを計画して実施して（そして疲れる）
A8	筆記試験（Multiple Choice Questionなど） の作り方

LM

リーダーシップ・マネジメント

Leadership and Management

LM1	組織におけるマネジメントを考える 参1
LM2	経験学習とリーダーシップ開発 前W
LM3	職場学習と変革マネジメント 後W

PH

教育哲学

Philosophy

PH1	医学教育における省察と構成主義 —唯一解のない世界へようこそ 参1
PH2	医師はなぜ患者のために働くのか？ —新自由主義時代の医師のプロフェッショナリズム 後W
PH3	人生と時間と学び-生涯教育とHolistic教育 後W
PH4	他者貢献感と共同体感覚—アドラー心理学の教え
PH5	教育における権力 —フーコーとブルデューから読み解く
PH6	古典に学ぶ医学教育

IT

情報工学

Information Technology

- IT1 LMS (Learning Management System) の
イロハと本プログラムで使用するITツール 参1
- IT2 医学教育者のためのAI時代の教育設計：デジタル・
テクノロジーの活用とAI耐性の構築 参2
- IT3 SNS/YouTube時代における
プレゼンテーション技法
- IT4 電子ポートフォリオ
- IT5 Computer-based testの今とこれから

CA

文化人類学

Cultural Anthropology

- CA1 文化人類学と医学教育
—医学教育の文化的社会的文脈 前W
- CA2 異分野の教育（仮） 参2
- CA3 行動科学・社会科学の教育

RE

医学教育研究

Research

- RE1 医学教育を科学する
—社会医学としての医学教育学とその研究 前W
- RE2 リサーチクエストを立てる
- RE3 量的研究（1）
—アンケート調査の計画・実施とデータ分析
- RE4 量的研究（2）—量的データの統計解析（基本編）
- RE5 質的研究（1）—SCATによる質的データ分析
- RE6 質的研究（2）—エスノグラフィー入門
- RE7 質的研究（3）—Delphi法とNominal Group法
- RE8 医学教育研究のStrategy
—倫理審査・研究費・投稿雑誌

GE

医学教育学総論

General

- GE1 自己紹介と教育実践のプレゼンテーション 参1
- GE2 医学教育と医学教育学
—現場至上主義と概念化することの意味 参1
- GE3 教育実践と中間振り返りの
プレゼンテーション 参2
- GE4 Faculty Development 後W
- GE5 修了時プレゼンテーション 参3
- GE6 ティーチングポートフォリオと教育業績評価

OT

選択

Others

- OT1 同窓会企画
- OT2 日本の医学教育関連組織
—どこで誰が何を決めているのか？ 後W
- OT3 歴史上の医師と対話する 後W
- OT4 オンライン外科教育

AM

他の団体が主催する企画で
本プログラムの単位として認められるもの
Academic Meeting

- AM100 日本医学教育学会大会 [4]
- AM101 岐阜大学MEDCの主催する
セミナーとワークショップ [4]
- AM102 欧州医学教育学会 (AMEE) [8]
- AM103 アジア太平洋医学教育学会 (APMEC) [8]
- AM104 米国医学教育学会 (AAMC) [8]

※ [4] [8] の数字は授業時間を表します





本プログラムにおける基本的な学習・教育法

- 参加者は
- 事前に課題図書を読んでくる
 - 事前課題をやってくる（自分自身の経験を言語化しておく）
 - 当日は、他人の話をよく聞き、そして積極的に、自分自身の意を他人にわかるように伝える（＝討論する）
 - 知的に愉しく学ぶ
- 入れ子構造 「新しい教育方法」で「教育方法を学ぶ」という入れ子構造の中で様々な視点を持ち、深い学びへつなげる
- 対話を大事に 対話やコミュニケーションによって体験を振り返り言語化することで教育実績を見える化してゆく



ラーニングマネジメントシステム 『Google classroom』について

FCME（ふくみん）では、Google社の提供する学習支援システムGoogle classroomを使用します。

このシステムでは、授業の資料や提出課題などをアップロードしたり、ダウンロードしたりできます。

FCMEに関する情報（授業資料、発表資料、レポートなど）は、このGoogle classroom上にアップロードされ、必要に応じて、適宜、講師と受講生に共有や課題返却がされます。また、動画教材等はリンクからYouTubeへ誘導し、視聴いただく形式をとります。

詳細についてはマニュアル配布と対面型授業でお伝えいたします。FCMEで利用するシステムの使い方や機能などで、分からないことや困ったことがありましたら、遠慮なくご相談ください。

受講生の声と授業風景



参加した12名が、卒前教育から卒後教育まで様々な悩みを抱えておられた。それを解決するために真摯に相談にのってくれるMentorと同期の仲間がいることが分かった。

WEBで初対面であったにも関わらず、受講生も活発に発言できた。その環境を整えて下さったことがよかった。

皆さんの背景を少し想像できたのと、議論すべき課題が見えやすくなった点で、言語化することの重要性が感じられました。



それぞれの人となり伝わってきたこと。
似たような悩み、全く新しい視点に出会えました。

オンラインで発表するのは初めてで新鮮でした。

本編もちろんですが、チャットがとてもためになりました。

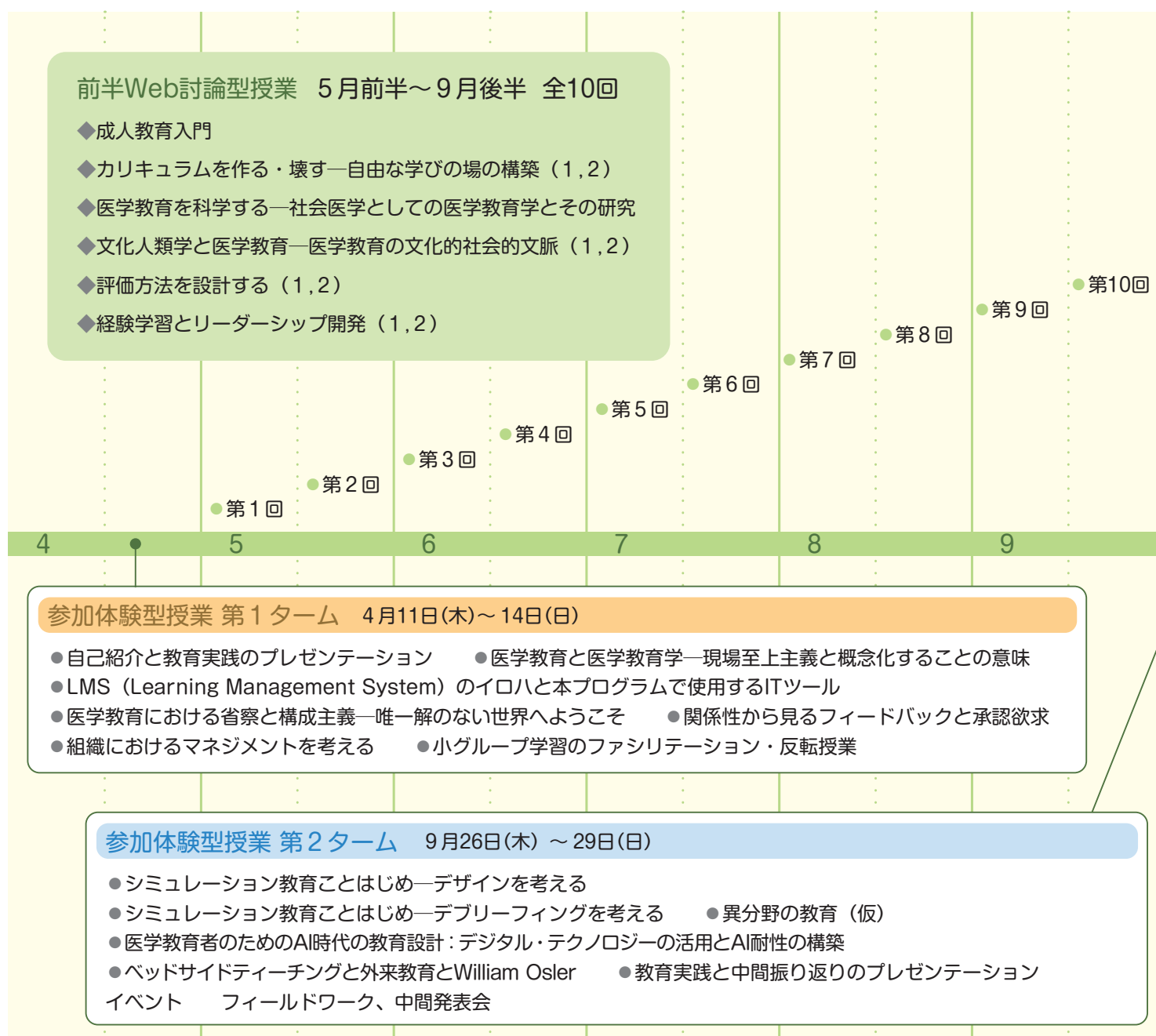


2023年度は対面で体験型授業を展開



- 年3回（1ターム4日間。木・金・土・日に開講）
- 第1ターム：4月11日(木)～14日(日)
第2ターム：9月26日(木)～29日(日)
第3ターム：3月13日(木)～16日(日)
- 社会状況によって、オンラインで行う場合があります。

年間カレンダー



- 月に2回（前半・後半）、1回2時間、原則講師2～3名と受講生6名で開催します。
- Web討論システムのトラブル時は指定の連絡先にご連絡ください。
- Web討論システムはZoom(<http://zoom.us/jp-jp/meetings.html>)を予定しています。こちらの会議リンクをその都度提示いたしますのでご自身で指定の時間にアクセスしてください。



4月11日(木)

8:30~10:30 | 開講式・事務連絡(全員) 自己紹介とオリエンテーション

10:45~15:45 | **GE1** 自己紹介と教育実践のプレゼンテーション(木村/宮地由/錦織)(昼食)

16:00~18:15 | **GE2** 医学教育と医学教育学—現場至上主義と概念化することの意味(錦織)

4月12日(金)

8:30~12:45 | **IT1** LMS(Learning Management System)のイロハと
本プログラムで使用するITツール(梶田/近藤)
(昼食)

14:00~18:15 | **PH1** 医学教育における省察と構成主義—唯一解のない世界へようこそ(種村/森下/木村)

4月13日(土)

8:30~12:45 | **A1** 関係性から見るフィードバックと承認欲求(木村/佐野)
(昼食)

14:00~18:15 | **LM1** 組織におけるマネジメントを考える(高尾/山田圭)

4月14日(日)

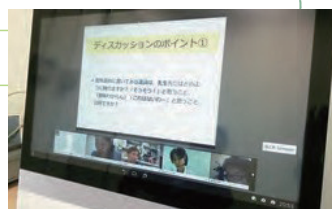
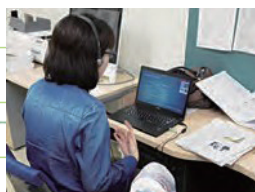
8:30~12:45 | **TL1** 小グループ学習のファシリテーション・反転授業(宮地由/染谷)

前半 Web討論型授業



※実施日は各グループにて調整

第1回	5月前半	月 日 () : ~ :	TL2 成人教育入門〈柴原〉
第2回	5月後半	月 日 () : ~ :	CD1 カリキュラムを作る・壊す—自由な学びの場の構築(1)〈宮地由／松下〉
第3回	6月前半	月 日 () : ~ :	CD1 カリキュラムを作る・壊す—自由な学びの場の構築(2)〈宮地由／松下〉
第4回	6月後半	月 日 () : ~ :	RE1 医学教育を科学する—社会医学としての医学教育学とその研究〈菊川／錦織〉
第5回	7月前半	月 日 () : ~ :	CA1 文化人類学と医学教育—医学教育の文化的社会的文脈(1)〈飯田／宮地純／梅村〉
第6回	7月後半	月 日 () : ~ :	CA1 文化人類学と医学教育—医学教育の文化的社会的文脈(2)〈伊藤／宮地純／梅村〉
第7回	8月前半	月 日 () : ~ :	A2 評価方法を設計する(1)〈松山／斎藤〉
第8回	8月後半	月 日 () : ~ :	A2 評価方法を設計する(2)〈松山／斎藤〉
第9回	9月前半	月 日 () : ~ :	LM2 経験学習とリーダーシップ開発(1)〈高尾／山田圭〉
第10回	9月後半	月 日 () : ~ :	LM2 経験学習とリーダーシップ開発(2)〈高尾／山田圭〉



9月26日(木)

8:30~12:45 | **TL3** シミュレーション教育ことはじめ—デザインを考える〈及川／田中／染谷／高見〉
(昼食)

14:00~18:15 | **TL4** シミュレーション教育ことはじめ
—デブリーフィングを考える〈及川／田中／染谷／高見〉

9月27日(金)

8:30~12:45 | **CA2** 異分野の教育(仮)(1)
(昼食)

14:00~18:15 | **CA2** 異分野の教育(仮)(2)

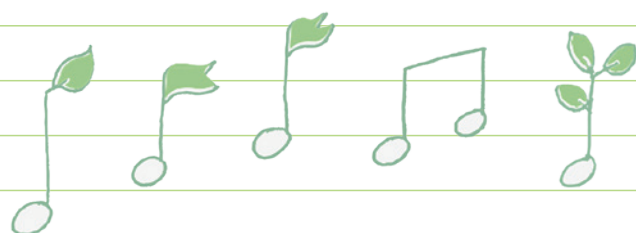
9月28日(土)

8:30~12:45 | **IT2** 医学教育者のためのAI時代の教育設計: デジタル・テクノロジーの活用とAI耐性の構築〈杉森／近藤〉
(昼食)

14:00~18:15 | **TL5** ベッドサイドティーチングと外来教育とWilliam Osler〈鈴木富／木村／錦織〉

9月29日(日)

8:30~12:45 | **GE3** 教育実践と中間振り返りのプレゼンテーション〈木村／宮地由〉



後半 Web討論型授業

※実施日は各グループにて調整

第11回	10月前半	月 日 () : ~ :	TL6 学生・研修医のメンタルサポート〈松本〉
第12回	10月後半	月 日 () : ~ :	OT2 日本の医学教育関連組織—どこでだれが何を決めているのか?〈小西〉
第13回	11月前半	月 日 () : ~ :	PH2 医師はなぜ患者のために働くのか?—新自由主義時代の医師のプロフェッショナリズム〈錦織〉
第14回	11月後半	月 日 () : ~ :	CD2 カリキュラム評価と「有名臨床研修病院」の意味〈林／磯部〉
第15回	12月前半	月 日 () : ~ :	LM3 職場学習と変革マネジメント〈高尾／山田圭〉
第16回	12月後半	月 日 () : ~ :	CD4 地域基盤型医学教育—理論と実践〈高村〉
第17回	1月前半	月 日 () : ~ :	OT3 歴史上の医師と対話する〈森下／錦織〉
第18回	1月後半	月 日 () : ~ :	GE4 Faculty Development〈木村／磯部〉
第19回	2月前半	月 日 () : ~ :	PH3 人生と時間と学び—生涯教育とHolistic教育〈種村／木村〉
第20回	2月後半	月 日 () : ~ :	CD6 データは医学教育をどのように変えうるか(教学IR入門)〈山田剛〉



3月13日(木)

8:30~12:45 | **A4** Work-Based Assessment 評価者トレーニングとルーブリック 〈松山／斎藤／木村／木村友〉
(昼食)

14:00~18:15 | **A5** 合否判定基準と再試験の在り方 〈斎藤／松山／木村／木村友〉

3月14日(金)

8:30~12:45 | **TL7** シネメデュケーション—映像の持つ力とその教育への応用 〈染谷／森下／錦織〉
(昼食)

14:00~18:15 | **CD3** インストラクショナル・デザインで斬る 〈鈴木克／高見／木村〉

3月15日(土)

8:30~12:45 | **TL8** PBL—理論的美しさと日本での実質的破綻 〈清水／篠崎／宮地由〉
(昼食)

14:00~18:15 | **GE5** 修了時プレゼンテーション (1) 〈木村／宮地由／錦織〉



3月16日(日)

8:30~12:45 | **GE5** 修了時プレゼンテーション (2) 〈木村／宮地由／錦織〉

13:00~14:00 | 修了式

履修証明プログラム

FCME (Foundation Course for Medical Education)

参加体験&Web討議混合型プログラム

現場で働く教員・指導医のための 医学教育学プログラム—基礎編

■授業科目（予定）

- カリキュラム開発（例：カリキュラムを作る・壊す—自由な学びの場の構築）
- 教育哲学（例：医学教育における省察と構成主義—唯一解のない世界へようこそ）
- 学習者評価（例：診療現場での間主観的な評価—責任ある主観とポートフォリオ）
- 教育と学習（例：シミュレーション教育ことはじめ—デザインを考える）
- リーダーシップとマネジメント（例：職場学習と変革マネジメント）

■受講形態

年3回の参加体験型授業（1回4日間。2025年4月、9～10月、2026年3月の木・金・土・日を予定）と、月に2回のWeb討議型授業（1回2時間、日程は要相談）による1年間のプログラムです。

■本プログラムの受講要件

- 原則として卒後6年目以上の指導経験のある医師
 - 患者さんはもとより、医学生・研修医、また他の医療職に対しても愛情を持って接していること
 - 利他的な行為としての教育に関心を持っていること
 - 本プログラム自体の構築・開発に協働して参加する意思のあること
 - 年3回の参加体験型授業に出席するため、下記の予定を確保できる方
 - ・採用年度の4月・9～10月・3月のそれぞれ4日間（原則として全日程の出席を求めます）
- ※オンラインでの実施となる場合もございます。

■受講費用

約35万円（予定）

■修了要件

1. Web討論型授業と参加体験型授業を合わせて1年間で120時間以上履修すること。
2. 各科目での評価で合格すること（可否判定はレポートの内容・討論での発言の質および量・自身の教育活動の映像分析内容などで行う予定です）。

修了者には大学から正式な履修修了証が授与されます（学位は取得できません）。

■応募方法

- 定員 10名程

- 2025年度受講生 募集期間
2024年10月～11月頃の予定

● 選考方法

出願書類（必要に応じて面接）による選考を行います。

- 出願書類（書式をダウンロードできます）

下記5点を郵送ください。（封筒には「FCME応募」と朱書きすること）

書き方については「出願書類について」をご参照ください。

- ・履歴書
- ・出願許可証（受講同意書）
- ・推薦状
- ・志望動機と修了後の展望
- ・医学教育に関する実践記録

詳しくは、ウェブサイトで検索してください。

スタッフ紹介

- 現在の所属
- 卒業大学 卒年
- 専門診療科・専門領域
- ふくみんへの参加動機・期待することなど



飯田 淳子 (いいだ じゅんこ)

川崎医療福祉大学医療福祉学部／研究科
医療福祉学科 教授
総合研究大学院大学文化科学研究科
文化人類学・医療人類学



文化人類学が組み込まれていることは、医学教育学プログラムとしてFCMEのユニークな点の一つです。これまで受講生の皆さんとの対話を通じ、「他者（異文化）理解の学問」である文化人類学が医学教育学と協働できることは少ないことがわかってきました。皆さんとのさらなる対話により、新たな学びを体験できることを楽しみにしています。

錦織 宏 (にしごり ひろし)

名古屋大学大学院医学系研究科
総合医学教育センター 教授
名古屋大学医学部 平成10年
医学教育学・総合診療医学



内科医／総合診療医であり、社会医学の一分野である医学教育学分野の研究者です。ふくみんも9年目に入りました。医学教育学という分野を通して、人間の行動や思考、生き方などについてより深く考えることができるようになり、この学問に出会えたことに感謝しています。皆様との対話を楽しみにしています。

磯部 真倫 (いそべ まさのり)

岐阜大学大学院医学系研究科
産科婦人科学 教授
山形大学 平成14年
産科婦人科・腹腔鏡手術



FCME 4期生です。FCME修了後に医学教育を専門とする産婦人科医のキャリアを歩み、令和5年から岐阜大学で医学教育を専門とする臨床系教授として勤務しています。より臨床に近く、現場に近い視点で医学教育の楽しさを伝えたく思います。

木村 武司 (きむら たけし)

名古屋大学医学部附属病院
卒後臨床研修・キャリア形成支援センター
福島県立医科大学医学部 平成19年
総合内科・小児科・医学教育学



FCME 3期生です。医学教育の分野の駆け出しですが、みなさんと一緒に深く学んでいきたいと思っています。FCMEについて何かわからない事があれば、気軽に聞いてください。どうぞよろしくお願いいたします。

伊藤 泰信 (いとう やすのぶ)

北陸先端科学技術大学院大学 (JAIST) 教授
藤田医科大学医学部 客員教授
九州大学大学院比較社会文化研究科博士課程
文化人類学・知識人類学・医療工スノグラフィ



自分たちの“当たり前”の発想から自由になること・抜け出すことは、なかなか容易ではありません。文化人類学的な視点、工スノグラフィという方法論はそれを解きほぐす（“リフレーミング”する）のに優れています。それぞれ違った視点を持つ皆さんと学び合えることを楽しみにしています。

宮地 由佳 (みやち ゆか)

名古屋大学大学院医学系研究科総合医学教育センター
新潟大学医学部 平成19年
家庭医療・緩和医療・医学教育学



皆様と一緒により深く、より広く学ばせて頂けるのを楽しみにしています！

梅村 絢美 (うめむら あやみ)

名古屋大学大学院医学系研究科 特任助教
首都大学東京大学院 平成25年
文化人類学



医学教育に関わる先生方の視点や関心について興味があります！

及川 沙耶佳 (おいかわ さやか)

秋田大学大学院医学系研究科
先進デジタル医学・医療教育学講座 特任教授
旭川医科大学医学部 平成18年
救急科・医学教育学



ふくみんでは、受講生の皆さんのディスカッションから多くの気づきをもらい、とても楽しく参加しています。シミュレーションのセッションでは頭だけではなく、体も動かしながら受講生の皆さんとともに、多くの学びを作り上げることができればと思います。

小西 靖彦 (こにし やすひこ)

順天堂大学医学教育研究室 特任教授
京都大学大学院医学研究科
医学教育・国際化推進センター 名誉教授
京都大学医学部 昭和57年
外科（肝胆腎移植外科）



現場の医師が、医学教育について現場の感覚をもとに学ぶことを期待しています。医学教育の理論と実践の往復を楽しんでください。

梶田 将司 (かじた しょうじ)

名古屋大学情報基盤センター 教授
名古屋大学大学院工学研究科情報工学専攻
博士課程後期課程
平成7年単位修得退学



大学における教育・学習のための情報環境を創ってます。教育の本質は、教員と学生のインタラクションで、ICTを通じてどう支援するかを研究開発しています。classroomを通じてその成果の一部をご体験頂ければ幸いです。

近藤 猛 (こんどう たけし)

名古屋大学医学部附属病院
卒後臨床研修・キャリア形成支援センター
名古屋市立大学（学士（医学））2006
マーストリヒト大学（修士（医療者教育学））2021
総合診療科
総合診療・家庭医療・医学教育



総合診療科で働きながら教育に携わっております。ITと教育の連携に興味を持って取り組んでいます。

菊川 誠 (きくかわ まこと)

九州大学大学院医学研究院医学教育学部門 准教授
鹿児島大学 平成9年
医学教育学



参加者の皆さんと医学教育について語ること、また医学教育研究についての議論を楽しみにしております。

斎藤 有吾 (さいとう ゆうご)

新潟大学 教育基盤機構 教学マネジメント部門 准教授
京都大学大学院教育学研究科博士後期課程修了
京都大学博士（教育学） 平成30年
教育評価論・高等教育論



京大の高等教育研究開発推進センター出身で、専門は高等教育論、教育評価・測定論です。現在は国立大学で教学マネジメントの業務に携わっております。前職はコメディカルを養成する医療系の単科大学でしたが、医学に関しては本当に素人です。一緒に議論させていただきながら、共に学べることを楽しみにしております。

木村 友和 (きむら ともかず)

名古屋大学医学部附属病院
泌尿器科/総合医学教育センター/
卒後臨床研修・キャリア形成支援センター
筑波大学医学専門学群 平成17年
筑波大学大学院 人間総合科学研究科 疾患制御医学専攻 博士課程修了 平成27年
泌尿器科



FCME7期としてこのプログラムに参加しました。現場で医学生や研修医の教育をしながら感じているもやもやしていたものが、熱い仲間とともに学びながら日々解消していく感覚が忘れられません。専門診療科と医学教育の二刀流に関するキャリア形成においても、このコミュニティーでたくさんものを学び今に至ります。医学教育に興味のある臨床医が、よりよい教育を届けるためのモチベーションの維持とスキルアップのお手伝いができると幸いです。

佐野 樹 (さの いつき)

三重県立こころの医療センター 診療科 医長
名古屋大学大学院医学系研究科
札幌医科大学 平成17年
精神科・多職種連携教育・精神医学・心理学



他者を理解するとはどういうことなのか、物心ついた頃から悩み始め、ついには精神科医としてそれを仕事にし、それでもあきたらず研究者にまでなった私です。普段は、三重県津市の公立精神科病院で精神科医、及び研修指導者として働きつつ、名古屋大学で医学教育研究にも携わっています。関心領域は、多職種連携における他者理解、社会的公正教育などで、最近はマンガを用いた多文化教育にも携わっています。

篠崎 和美 (しのぎ かずみ)

東京女子医科大学眼科
東京女子医科大学 昭和62年
眼科



プログラムの中の次の5つのキーワードをみて一筋の光が差し込むような感じがしました。現場で働く指導医、武士道、プロフェッショナリズム、アイデンティティ形成、多職種連携教育。このプログラムで、ぜひ、学び、追求し、光を掴みたいと思い参加しました。様々な年代、様々な施設、様々な分野の先生方と純粋に後輩の指導について語り合えるこの場を大切にしたいと思います。

鈴木 克明 (すずき かつあき)

武蔵野大学習学開発センター長・教授
米国フロリダ州立大学大学院教育学研究科
博士後期課程
昭和62年Ph.D (Instructional System)
教育工学



本プログラムの思想「難しいことを簡単に伝える（決して、簡単なことを難しくしない）」を旨として率直にわかりやすくお答えするように最善を尽くしますので、答え甲斐のある問を持ち込んでください。IDの思想を「過度に」押し付けますので、全力で抵抗してください。

柴原 真知子 (しばはら まちこ)

ケンブリッジ大学大学院教育学研究科
京都大学大学院教育学研究科博士後期課程中途退学
生涯教育学



現場にいらっしゃる先生方と一緒に、教育について議論できるのをとても楽しみにしています。
ぜひいろいろと勉強させてください！

鈴木 富雄 (すずき とみお)

大阪医科大学 地域総合医療科学寄付講座 特任教授
大阪医科大学 医学部附属病院総合診療科 科長
名古屋大学医学部 平成3年
医学教育学・総合診療医学



卒業以来ジェネラルな診療と教育に一貫して関わってまいりました。このプログラムで皆さんと共に学べることを楽しみにしています。

清水 郁夫 (しみず いくお)

千葉大学医学部 医学教育研究室 特任教授
信州大学医学部 平成16年
内科学・医学教育学



内科臨床医が教育に興味を持って、現在は医学部のカリキュラム改革などに関わっております。FCMEの場で皆様と議論できることを楽しみにしております。一緒に学びましょう。

染谷 真紀 (そめや まき)

京都大学医学部附属病院
総合臨床教育・研修センター 助教/シミュレーションセンター長
筑波大学 平成21年
小児救急・集中治療



小児科のワークショップなどを通して医学教育に興味を持ち、4期生として受講しました。人材育成・シミュレーションなどに特に興味を持っています。ともに学ばせていただきたいと思っています。よろしくお願いします。

杉森 公一 (すぎもり きみかず)

北陸大学高等教育推進センター 教授・センター長
金沢大学大学院
自然科学研究科博士後期課程 博士(理学) 平成19年
筑波大学大学院
修士課程教育研究科教科教育専攻 修士(教育学) 平成16年
計算量子化学・理科教育・大学教育開発



技術の進展がとても速いのですが、みなさんと一緒に教育への対応を考えていきたいと思っています。

高尾 義明 (たかお よしあき)

東京都立大学大学院経営学研究科 教授
京都大学教育学部教育社会学科
京都大学大学院経済学研究科博士後期課程
経営学(経営組織論・組織行動論)



経営学はみなさんにとってあまりなじみがないと思いますが、医療機関の中で教育・研究を実際に進めていくために有益な知識源になりうると思います。
みなさんとのインタラクティブな授業を楽しみにしています。

高見 秀樹 (たかみ ひでき)

名古屋大学医学部附属病院 消化器外科2病院講師
卒後臨床研修キャリア形成支援センター
名古屋大学 平成15年
消化器外科



医学教育を一から学びたい、と思ってふくみんへ参加しました。その結果本当にたくさんの事を学び、また、多くの仲間を得ることができました。まだまだこのラーニングコミュニティを拡げていきたいと思っています！

林 幹雄 (はやし みきお)

関西医科大学教育センター
川崎医科大学 平成18年
総合内科・家庭医療



FCME 1 期生です。学べば学ぶほど奥の深い分野ですが、皆様の教育実践を通じて一緒に学ばせて頂くのを楽しみにしています。

高村 昭輝 (たかむら あきてる)

富山大学医学教育学講座 教授
富山医科薬科大学 平成10年
小児科・総合診療科



いろんな価値観を持った皆さんとの出会いを期待しています。

春田 淳志 (はるた じゅんじ)

慶應義塾大学医学部
医学教育統轄センター/総合診療教育センター
旭川医科大学 平成16年
総合診療



地域で総合診療・家庭医の経験をもちながら、現在は都内で外来・訪問診療をしながらも大学では総合診療の外来や卒前・卒後教育全般に関わっております。

私の担当するのは選択授業の多職種連携教育ですが、皆さんとディスカッションしながら楽しく学べたら幸いです。よろしくお願いいたします。

田中 淳一 (たなか じゅんいち)

東北大学大学院医学系研究科
医学教育推進センター 教授
新潟大学 平成16年
総合診療科・内科・呼吸器内科



FCMEの1期生です。2期以降、講師側として参加させていただきます。まだまだ学ぶことが多く、皆様と一緒に楽しんで学ばせていただければと思います。

松下 佳代 (まつした かよ)

京都大学大学院教育学研究科 教授
京都大学大学院教育学研究科
博士後期課程研究指導認定退学
教育方法学・大学教育学



これまで歯学教育や理学療法学教育の分野では共同研究をしてきましたが、医学教育については素人同然です。チームを組んでいる宮地由佳先生や錦織先生、受講者のみなさんから教えてもらいながら、教えています。カリキュラムの見方をカチコチではなく柔らかくできれば、と思っています。

種村 文孝 (たねむら ふみたか)

東洋学園大学人間科学部 准教授
新潟大学大学院現代社会文化研究科 博士後期課程
生涯教育学



生涯教育学の観点から、専門職の学びや専門職と市民の協働などをテーマに研究してきました。医師が頼られ、人々が安心して医療と向き合える社会となるように、一般人の感覚も持ちながら医学教育を考えていけたらと思っています。

松本 寿弥 (まつもと ひさや)

名古屋大学学生支援本部
学生相談センター教育連携室 室長・学術主任専門職
オレゴン大学教養・理学部
京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程
京都文教大学大学院臨床心理学研究科博士前期課程



心理学・精神分析学・学生相談・組織コンサルティング
カウンセラー・コンサルタントとして学生支援の仕事をしています。新しい世界に触れ探究することが好きです。医学教育に触れるのははじめてで学ばせていただくことになりましたが、皆様と一緒に考えることを通して、お役に立てましたら幸いです。

松山 泰 (まつやま やすし)

自治医科大学医学教育センター センター長/教授
自治医科大学医学部 平成13年
地域医療学・医学教育学



自治医大卒業後、へき地診療を経て、現在は母校の後輩育成に奮闘している毎日です。総合判定試験の運営や学生評価全般の改善に取り組んでいます。よろしくお願いします。

山田 圭 (やまだ けい)

久留米大学医学部 医学教育研究センター・整形外科
久留米大学医学部 平成4年
整形外科・脊椎外科



FCME 4期生です。FCMEで学べたことは、医学教育に携わってきた中で大きな転換点となりました。異なる背景を持つメンバー同士で予想外の化学反応と一緒に体験し学んで行けることを非常に楽しみにしています。

宮地 純一郎 (みやち じゅんいちろう)

京都大学医学研究科医学教育・国際化推進センター 研究協力員
北海道家庭医療学センター/浅井東診療所/
名古屋大学大学院医学系研究科 (博士後期課程)
大阪大学医学部 平成17年
家庭医療学・医学教育学・医療人類学



滋賀県長浜市の山間部診療所で家庭医として働きつつ、北海道の診療所指導医養成プログラムを運営しています。医学教育学では、(医療人類学をはじめとした)社会科学の教育、郡部医師のアイデンティティ形成、臨床推論の研究をしています。主に文化人類学および評価のコンテンツを担当しています。どうぞよろしくお願いします。

山田 剛史 (やまだ つよし)

関西大学教育推進部 教授
神戸大学大学院 博士後期課程 平成17年
高等教育開発 青年心理学



期待していることは、医療現場に携わりながら医学教育学を学ぼうという意味をお持ちの先生方とお会いできること、みなさんの想いや考えに触れることができること、医学教育という文脈から高等教育を見ることが新たな発見・気づきが得られることなどです。

森下 真理子 (もりした まりこ)

京都大学医学部附属病院 医療安全管理室 助教
大学院医学研究科 医学教育・国際化推進センター客員研究員
医学部歴史資料室 室員
名古屋大学 総合医学教育センター 客員研究者
京都保健会仁和診療所
京都府立医科大学 平成16年
家庭医療



京都市内にある診療所で家庭医として働きつつ、医学教育学研究を学び、現在は、医学教育や医療実践を人文社会科学の知を手がかりにしながら捉え直すことを試みよう、もがきながらも、楽しく研究しております。FCMEで皆様と一緒に学べることを楽しみにしています、どうぞよろしくお願いします。

佐方 初奈 (さかた はつな)

名古屋大学大学院医学系研究科
横浜国立大学大学院 博士後期課程 平成31年
環境学



事務局として、皆様の学びのサポートを頑張ります！選択授業でも、皆様と議論できることを楽しみにしております！



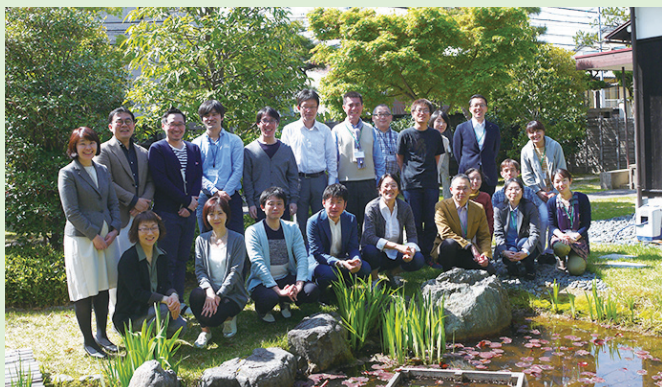
第1期受講生



第2期受講生



第3期受講生



第4期受講生



第5期受講生



第6期受講生



第7期受講生



第8期受講生



第9期受講生



指導医のための 医学教育学

実践と科学の往復

錦織 宏・三好沙耶佳 編

A5判並製・390頁 定価：本体 3600円（税別）
ISBN 978-4-8140-0290-0



◆目次より
はじめに

1 General (GE) 医学教育学総論

医学教育学とは？ ～医学教育を科学するという視点～
教育実践を他人に見える形にすること／医学教育と医学教育学

2 Teaching and Learning (TL) 教育と学習

どのように教えるのか？ ～教え方や学び方に関する理論・モデル・考え方～

成人教育理論入門／小グループ学習におけるファシリテーションと空気を読むこと／ベッドサイドティーチングと実践共同体／シミュレーション教育とははじめデザイン／シミュレーション教育とははじめデブリーフィング／メンタリングと困った学生・研修医への対応／シネマデュークレーション—映像の持つ力とその教育への応用／Problem-based learning—美しい理論がなぜ実践で破綻したのか？

3 Assessment (A) 学習者評価

どのように評価するのか？ ～試験も含めた学習者評価の方法に関する理論・モデル・考え方～

キャラに合わせたフィードバックと承認欲求／ちゃんとした試験をすれば授業は要らない？／診療現場での主観的な観察評価“できる”かどうかを知る—ポートフォリオを題材に／ルーブリックによる評価

4 Curriculum Development (CD) カリキュラム開発

どのようにカリキュラムを作るのか？ ～カリキュラム開発に関する理論・モデル・考え方～

カリキュラムを作る・壊す—自由な学びの場を構築する／カリキュラム評価と有名臨床研修病院の意味／インストラクショナル・デザインと構造化の功罪／Entrustable Professional Activity—“信頼して任せられる”とは何か？

5 Leadership and Management (LM) リーダーシップ・マネジメント

どのようにリーダーシップをとっていくか？ ～組織をまとめる際に知っておくべきこと～

変革プロセスとマネジメント・リーダーシップ／経験学習とリーダーシップ開発

6 Information Technology (IT) 情報工学

ITを使った教育をどのように展開するのか？ ～オンライン教育の活用例やその歴史～

ITを使った学びのさまざま／Learning Management Systemのいろは／新型コロナウイルス感染症による医学教育の変化

7 Philosophy (PH) 教育哲学

医師はなぜ教育に関わるのか？ ～なぜを問い続けること～

医学教育における省察と構成主義—唯一解のない世界へようこそ／武士道プロフェッショナリズムとジェダイの哲学／現象学の医学教育学における可能性

8 Cultural Anthropology (CA) 文化人類学

なぜ自分の施設ではうまくいく／いかないのか？ ～文化的社会的文脈を考えること～

医学教育の文化的社会的文脈／幼児教育から学ぶ／パーソナルスタイリストから学ぶ

9 General (GE) 医学教育学総論

ふたたび医学教育学とは？ ～医学教育に関連する組織や、指導医養成について～

日本の医学教育関連組織—どこで誰が何を決めているのか？／Faculty Development—どうせやるなら“楽しく”教えよう

10 Research (RE) 医学教育研究

医学教育学分野における研究とは？ ～巨人の肩の上に立って知見を積む～

医学教育を科学する—社会医学としての医学教育学とその研究

ふくみん受講生たちが考えたこと

おわりに

